

神奈川ウォーキング参加 H23-08

紅葉真っ盛りの鎌倉路

日時：平成23年12月6日(火) 集合⇒北鎌倉駅 円覚寺側出口 10時
 コース：円覚寺(拝観料¥300)→浄智寺→海蔵寺→源氏山公園→銭洗弁天→佐助稲荷→大仏→長谷駅
 解散 15,000歩 10KM
 参加者：大平(L) 勅使河原・菊池・平野・神谷・仲・栗本・戸田・小野寺・伊藤⇒男性10人
 吉越・中村・斎藤優・小川・前島・熊島・渡辺ノ・平林・沢崎・道田⇒女性10人 合計20人

- ・今年の秋は行事が多く、12月に入って6日(火)のみ空白。鎌倉は別のグループで四季の花とお寺巡り「鎌倉ぶらり&蕎麦焼酎を楽しむ会」が有り。紅葉は毎年来ており、明日12月7日(水)が予定日で有ったがゴルフ例会で行けず。紅葉も例年に比べ、秋の異常暑さ気象で期待は出来ないとの情報も有りましたが、毎年連続で行っており中止は心残り、前日神谷さんのお勧めも有り参加決定しました。
- ・今回の参加者、男女同数の各10人で、人員確認も男女グループでやりました。
- ・天気予報は午後から小雨でしたが、佐助稲荷で早目の小雨降り出しで雨具装備し、大仏ハイキングコースからトンネル出口の道路に出て、「大仏」の頭を拝観しながら、最後の「長谷観音」行きについて、Lから皆さんの希望聴くも無。長谷駅で14:30解散しました。雨の歩行はやりたくありません・・・

①円覚寺：鎌倉五山第二位、^{ずいろくさんえんがくこうしやうぜんじ}瑞鹿山円覚興聖禪寺、臨済宗円覚寺派の大本山。1282年鎌倉幕府八代執権北条時宗公開基。中国の名僧無学祖元を開山第一世に迎えた。約1時間かけてゆっくり見ました。



北鎌倉駅直ぐ傍の総門



銀杏は綺麗に黄葉しておりました

許可を戴いて、駐車場にて戸田さんによるストレッチ



↑桂昌院では、弓道の稽古をやっておりました 寒桜もチラホラ





高台にある墓地から三门を見る



花の名は？



妙香池から正伝庵、一番奥の黄梅院（時宗公夫人覚山尼建立）に行く石段周辺の紅葉がポイントだが？



↑ヒメツルソバは毎年歓迎してくれる



↑ 11時総門出口に集合したが、大平Lの提案で国宝「鐘楼」に行く。お陰さまで今まで行っていない塔頭を見ることが出来ました。

②浄智寺：鎌倉五山第四位。臨濟宗円覚寺派、金峰山。五代執権北条時頼の3男、北条宗政の菩提を祀る為、1283年に創建された。



浄智寺はさらりと横目で見て、海蔵寺に向。扇^{おうぎ}が^{やつ}谷の山道を行き、↑最後に住宅街に降りる所要注意！



中を覗き、2人十分入れるわよ！「誰とだれ？」

海蔵寺参道の紅葉トンネル

③海蔵寺：臨濟宗建長寺派、扇谷山。1253年鎌倉六代将軍宗尊が建立したが、1333年鎌倉幕府滅亡の兵火で全焼。1394年足利氏満の命を受けて上杉氏定が再興した。



↑鐘楼からのアングルは写真愛好家が狙う処

海蔵寺は花の寺で有名で1年中何らかの花が見られます。1月・スイセン・2月紅梅・3月ミツマタ・4月カイドウ・5月ツツジとサツキ・6月アジサイ・7月ノウゼンカズラ・8月サルスベリ・9月ハギ・10月シオン・11月コギク・12月マンリョウ



鐘楼から見る眺めは四季折々の花とお寺と紅傘



マンリョウが可愛く



↑今日は戸が解放されており、裏庭（写真右）も見える



底脱の井
(そこぬけのい)

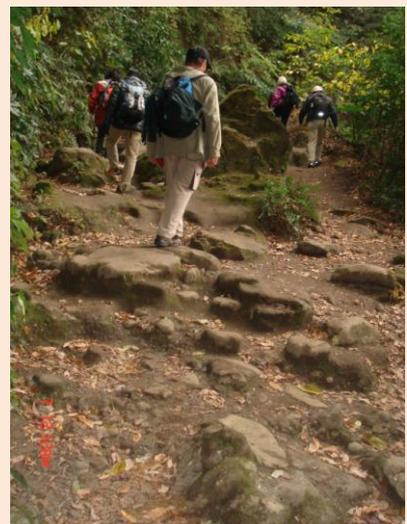
この井戸は、鎌倉十井の一つです。
中世の武将の安達泰盛の娘・千代能が、ここに水を汲みに来た時、水桶の底がすっぽり抜けたため、「千代能がいたたく桶の底脱けて、水たまらねば月もやどらず」
とうたったことから、この名がついたといわれています。
井戸の底ではなく、心の底が抜けて、わだかまりが解け、悟りが開けたという投機(解脱)の歌です。
平成11年12月
井戸主人 鎌倉青年会議所

←↑山門の右側に「底抜けの井戸」あり

④化粧坂：鎌倉7切り通しの1つ。→
「仮粧坂」とも書く。

名前の由来・各説有るも後世の創造の産物

- 平家の首を化粧して首実檢したから
- この辺に遊女がいたから
- 険しい坂が変じて
- 坂の上が、商取引が盛んで「気合飛坂」
- 木が多いので「木生え坂」



- ⑤源氏山公園：92，6mh 1965年に出来た公園。1083～1087八幡太郎義家が出陣する時この山に源氏の旗を立てて戦勝を祈った処から、「源氏山」「旗立山」と言われるようになった。この一帯、葛原岡は刑場で、後醍醐天皇の側近で鎌倉幕府の統幕に関わったとして、「日野俊基」もこの場所で処刑せられ、俊基の霊を祀る「葛原神社」は直ぐ近くに有る。ここで昼食
- ・小野寺さん曰く、小学生時代ここへ軍服の原料としての大麻を取りに来て、校庭に積んであったが、終戦で使用されなかった旨のお話を聴き、終戦前後の思い出話をしながら、昼食しました。(写真下左)



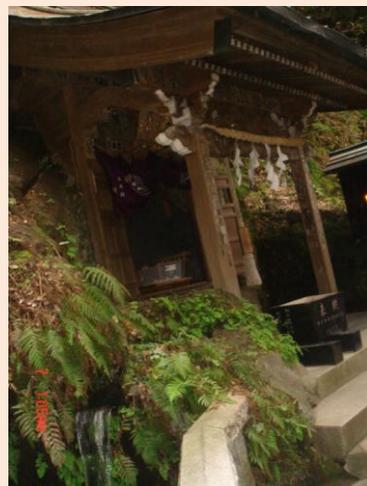
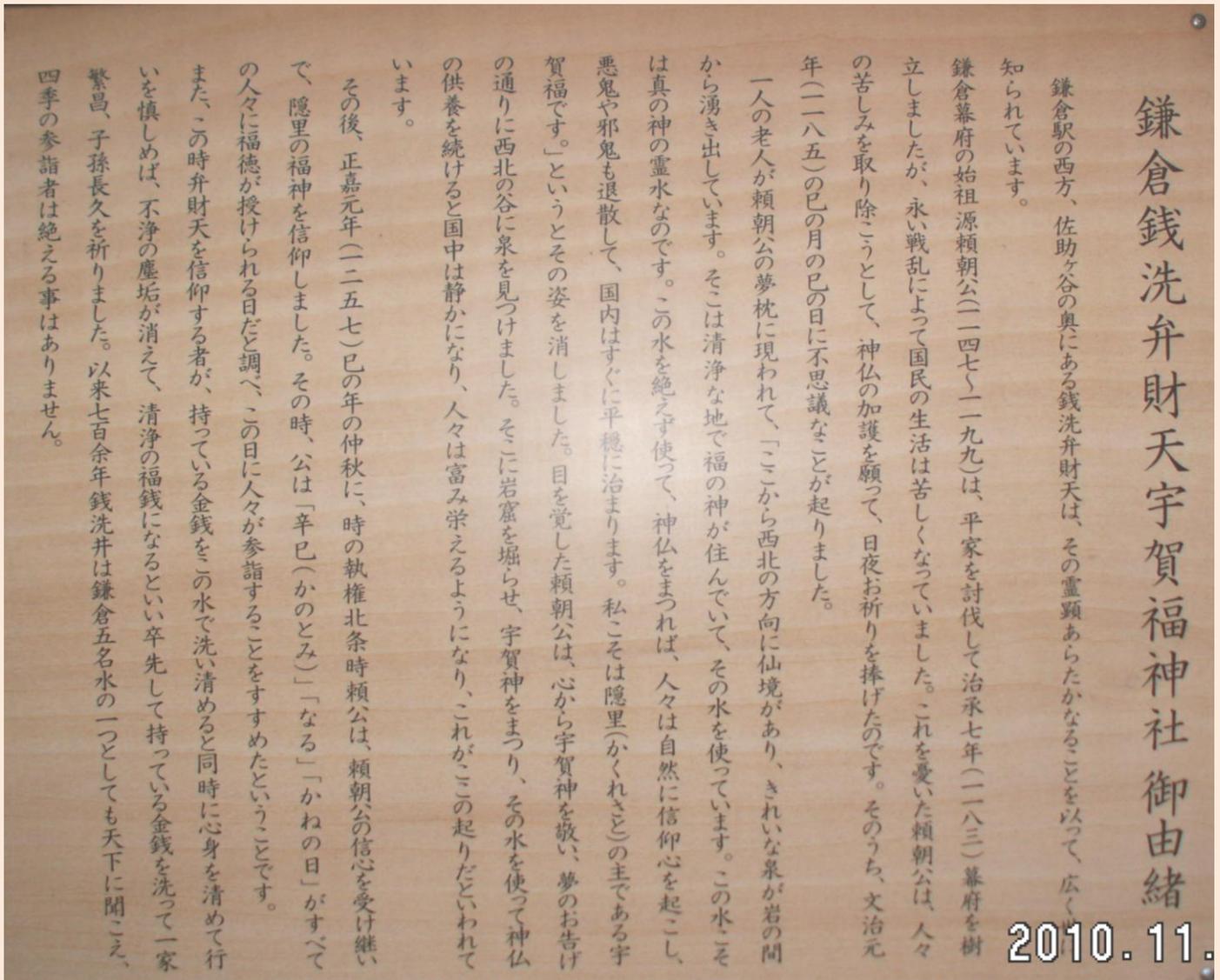
- ・仲さんテーブル、1人美熟女軍団に囲まれて、「薩摩かりんとう」サービスもあり、賑やかに盛り上がり↑



源頼朝公銅像前で集合写真（イケメン頼朝公に一番似ているのは・・・？）

注：編集メモはパソコンのHPから引用させて載しました。

⑥銭洗い弁天：昨年11月29日（月）「鎌倉ぶらり」時の「由来」写真です



↑下之水神社
←上之水神社

↑宇賀福神は水の神様で、身体は己=蛇、頭は老人

その為「己ノ日」には大勢の人が訪れます。

御札を洗った方は・・・？中学生の女の子は千円札を洗っていましたよ・・・

<昨年大きなビニール袋3つに硬貨を入れた親子がザルに入れて丁寧に洗っていました>

⑦佐助稲荷：由緒は下記の写真の通りです

相州鎌倉隠里 佐助稲荷神社由緒

当社は源頼朝公の再建せし古社にして御祭神は
宇加御魂命・大己貴命・佐田彦命・大宮女命
事代主命。

往古頼朝公伊豆蛭ヶ小島の配所にて、平家討伐を
日夜念じをりし折、稲荷の大神気高き老翁の姿にて
夢に現れ給い、羊兵をうながし、その時期を啓示し給えり。
頼朝公天下一統の礎を固めし後、稲荷神靈の加護に
感謝し畠山重忠に命じ、佐介山隠れ里の靈地を選び
社殿を造建せしむ。人々の信仰きわめてあつく、出世稲荷
としてその御神徳は広く関東一円に拡がりたり。

さらに寛元の頃（十三世紀中）鎌倉に疫病流行せし時、
佐介稲荷の大神再び奇瑞を現し給い、靈種をして
粟草を生せしめ病苦の者、こころ癒し給いぬ。

以来、神威更にかがやき、商売繁盛、病氣平癒、
大漁満船、学業成就の靈験顕然たり。

例祭 二月初午 正午

徳川時代、足柄郡の尼寺から縁あつて当地に安置

縁結び十二面観世音菩薩



↑鳥居とノボリの石段を登ります



佐助の稲荷山は往古より麓の田畑を潤す水溜の地
なり。生命の基のこの湧水と人々、靈狐の神水と称え
家々の神柵に供えて稲荷の神徳を戴くなり。
今に至るも絶えず湧き出づる靈狐の泉なり。

佐助稲荷神社

祭神 宇迦之御魂神
神徳 農漁高工業繁榮 生活の守護神

靈狐泉



↑「投げ入れられた硬貨が光っているわ？御水のせいかしら・・・？」

ここで小雨が降り始める。雨具装着。この裏山から大仏へ



↑坂道を登る、綺麗なパラソルはドナタでしょうか？

↑大仏ハイキングコース案内版です



↑小雨の為、地面は未だ濡れて居りません、助かります。

見事な根っこから枝分かれの古木と落ち葉の路を、男と女が傘をさしてゆく！なかなか見られない風情で賞（ショウ）！

やっと出て来ました！トンネル出口の道路です。→



←大仏様の頭を雨宿りしながら拝顔し、大平Lの温かいお言葉「次の予定長谷観音行き希望者は手を挙げて下さい」挙手誰も無。



アフターウォーク in 「わたみ」 ここも熟男熟女各7人がお見合い？

編集後記：大平さん「雨が少し早く降り始めました。私のせいではありません、誰でしょう」「お陰様でいつもより早く、アフターウォークを楽しんで御家に御帰り出来ます」の陰の声も有り。この後、明日のゴルフ会を確認の携帯入れ。「明日水曜日は＜2水＞ではありません、＜1水＞でした。小生もボケの始まりか？手帳と曆に「2水会」と記入有り。お陰様で、駅構内2階の海鮮屋さんで2次会。運営委員の反省会に菊池さんと参加しました。大平Lに厚く感謝致します。今回愛用のカメラ修理中で家内の慣れないデジカメで撮影しました。出来の悪いのはご勘弁下さい。楽しいウォーク有り難うございました。